



磯村 孝志 名誉教授

磯村孝志教授退職・名誉教授授与記念号に寄せて

磯村先生は、昭和42年4月に本学商学部助手として着任以来、実に44年の長きに亘って愛知学院大学商学部、大学院商学研究科ならびに大学の発展のために貢献され、平成23年3月31日をもって、愛知学院大学客員教授を退職され、同年4月に愛知学院大学名誉教授の称号を授与されました。長年のご功績に深謝し、ここに記念号を発刊し、先生に捧げたいと存じます。

先生の詳細な研究業績と経歴については、巻末をご覧ください。以下に先生の略歴とご活躍の一部を紹介し、退職記念・名誉教授授与記念号に寄せる言葉とさせていただきます。

磯村先生は、早稲田大学大学院商学研究科博士課程を修了後、昭和42年商学部助手に着任され、昭和45年に本学商学部専任講師、昭和53年助教授、平成5年商学部教授、平成16年には本学大学院商学研究科教授に就任されています。

この間、平成11年から4年間お務めになった商学部長の他、情報処理教育センター所長、商学部教務主任、情報処理教育センター主任などの要職を務められ、商学部、大学院商学研究科、大学全体の発展に尽くされました。

先生の専門である経済統計学の分野では、経済統計学手法を用いた地域・産業分析などの実証的解明に取り組まれました。また、情報技術分野に関する研究では、広く情報技術 (IT) と経済、産業、教育などのインターフェイスに関する研究に精力的に取り組まれました。現在に至るまで、こうした分野で着実な研究成果をあげられ、問題意識の先見性や新たな知見の披瀝は、高く評価されています。

学会活動としては、主なものだけでも日本統計学会、理論・計量経済学会、日本経済政策学会、日本消費経済学会等で活躍されました。

先生の情報技術分野に関する研究成果は、本学の情報教育においても大いに生かされ、顕著な功績を残されています。昭和55年、米国イリノイ大学での在外研究を契機に、情報技術関係分野の重要性に着目され、そうした知見をもとに、本学情報処理教育センター主任・所長の職を通じて、大学全体の情報教育の向上に大きく貢献されました。先生のご尽力で、情報教育分野で多くの実績を残すことができました。

従来、教育現場での情報処理教育は、プログラミングを中心に行われてきた傾向がありましたが、進歩する情報技術と対応し、情報処理技能の習得だけでなく、考える道具としてコンピュータを活用することの大切さについて、先生が説かれていたことを記憶しております。

こうした信念のもと、教育に努力を傾注され、その卓越した先見性、情熱あふれる丁寧な研究指導で多くの有為な人材を育てられました。先生に教えを受けた学生は数多く、磯村ゼミの卒業生は、企業人や高校教諭など広く社会で活躍をしています。

また、学部に、新たに産業情報学科を設置する際には、それまでの情報技術分野に関する経験・知識を生かし、商学部長として重責を担われました。

私は、先生が学部長に就任された年に、1年間、教務主任として、その下で仕事をさせていただきました。当時の記憶として、今でも鮮明に残っていることは、連日深夜まで学部長室に残られ、新学科設立の構想を練られていた姿です。まさに、そうしたご尽力があって、今日の商学部があります。

また、学外の活動においても、いくつかの地域づくり・商店街活性化委員会専門委員として社会貢献を果たされています。

先生の研究・教育にかける情熱やバイタリティには、いつも敬服しております。これからも商学部、大学全体の発展のために引き続き温かく見守っていただき、ご指導、ご教示ください。末筆ながら先生のますますのご健康・ご多幸をお祈り申し上げます。

平成24年12月吉日

愛知学院大学商学会 会長 脇 田 弘 久